

新潟県女性センター情報 No.86

2011. 7. 20発行

公開説明会報告

新潟県女性財団では、女性センター講座（下記に掲載）に先立ち、7月14日に第3次男女共同参画基本計画についての説明会を、北京JAC・新潟と共催で開催しました。

第3次男女共同参画基本計画は、男女共同参画社会基本法（平成11年6月公布・施行）に基づくもので、平成22年12月に閣議決定されました。この計画には、次の15の重点分野が掲げられています。

- ①政策・方針決定過程への女性の参画の拡大
- ②男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革
- ③男性、子どもにとっての男女共同参画
- ④雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保
- ⑤男女の仕事と生活の調和
- ⑥活力ある農山漁村の実現に向けた男女共同参画の推進
- ⑦貧困など生活上の困難に直面する男女への支援
- ⑧高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備
- ⑨女性に対するあらゆる暴力の根絶
- ⑩生涯を通じた女性の健康支援
- ⑪男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実
- ⑫科学技術・学術分野における男女共同参画
- ⑬メディアにおける男女共同参画の推進
- ⑭地域・防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進
- ⑮国際規範の尊重と国際社会の「平等・開発・平和」への貢献



今回の説明会では、内閣府男女共同参画局推進課の課長補佐である井上侑子さんから、第3次基本計画の概要と、各重点分野について基本的な考え方・具体的施策・成果目標を説明していただきました。また、6月に出た「平成23年版男女共同参画白書」についても紹介していただきました。

当日は、行政職員、市議や女性団体などから46名の参加があり、説明に関して質問も多くでるなど、第3次基本計画への関心の高さがうかがわれました。

*計画や白書についての詳細は、内閣府男女共同参画局ホームページをご覧ください。<http://www.gender.go.jp/>

女性センター講座

「第3次男女共同参画基本計画 新たな取組へのキーポイント」を開催します。

男女共同参画社会の実現をめざして、私たちはどのように取り組んでいったらいいのでしょうか。「第3次男女共同参画基本計画」に掲げられた15の重点分野から、3つをピックアップし、現状と課題を深掘りするとともに、県民・自治体に求められる取り組みを探る連続講座を開催します。是非、ご参加ください。

*いずれも火曜日、13:30~15:30

回	月日	内容	講師
1	7月26日	(第7分野) 貧困など生活上の困難に直面する男女への支援	竹信三恵子 (和光大学教授)
2	8月2日	(第3分野) 男性、子どもにとっての男女共同参画	石川伊織 (新潟県立大学教授)
3	8月9日	(第9分野) 女性に対するあらゆる暴力の根絶	戒能民江 (お茶の水女子大学名誉教授客員教授)

【人材育成セミナー 日程変更のお知らせ】

新潟県女性センター情報No.85でご案内の「実践講座 ロジカル・シンキング」の開催日を変更いたします。

(旧)9月3日(土)・4日(日)⇒(新)10月29日(土)・30日(日) 各日10~16時

*詳細は、チラシやホームページでお知らせしますので、是非、ご参加ください。

地域セミナー

今年度、新潟県女性財団が市町村と協働で開催する地域セミナーです。各セミナーの詳細は、当財団のホームページでも随時ご紹介します。

市町村	実施日	内容
新発田市 *好評終了	5/27	女性の多様な能力発揮
長岡市 *好評終了	6/19	ワークライフバランスの推進 企業交流会
阿賀野市	7/8~12/5 (4回)	事前学習会と農業女性との交流
燕市	9/30~10/21 (4回)	再就職とワークライフバランスを考える
佐渡市	9/16	女性が輝く地域づくり
十日町市	9/17~ (4回)	子どもが喜ぶお父さんのための読み聞かせ講座
三条市	未定	メディアリテラシー講座
上越市	未定	男性への男女共同参画推進に関する意識の啓発

ひとひと にいがた女と男フェスティバル

去る6月25日(土)・26日(日)に新潟ユニソンプラザを会場に、「にいがた女と男フェスティバル2011」を開催しました。25日・26日午前は、県内で活動する13団体によるワークショップが行われました。また、26日午後の女性財団主催の講演会では、『デフレの正体』の著者・藻谷浩介さんから「今こそ、発展のカギは男女共同参画」と題してお話いただきました。例年より多い男性参加者も含め、県内外から160人を超える方々に参加していただき大盛況のうちに終了しました。以下、講演の内容を掲載します。



講演会「今こそ、発展のカギは男女共同参画」



女と男の違いなんて吹き飛んでしまうくらい、個人個人は違います。違いを大事にして、ひとりひとりが幸せを掴める社会を作ろうというのが、男女共同参画の原点です。でも、ここではこの原点を離れて、経済面での話をします。

「女性が働くと子どもの数が減る」と言われる方が多いのですが、データを見ると20~30代の女性がフルタイムで働いている山形県や島根県などは、合計特殊出生率が高い。そして、女性が結婚する県ほど出生率が高い。前のデータと合わせて考えれば、女性が結婚しても働き続けられる県ほど子どもも生まれるということです。女性が働くと子どもが減るというのは間違いです。人は、「あの人の言っていることだから」と思いがちですが、そうではなく「客観的な統計数字」はどう言っているかを見るのが大事です。

新潟県の小売商業の売場面積は1990年から2006年にかけて増えているのに、売り上げは横ばいです。個人所得は1998年をピークに下がっています。雇用も増えていません。個人所得が下がっているのを見ると「不景気だから仕方がない」というふうに考えませんか、なぜでしょう？みんなが言っているからです。でもそれは本当でしょうか。問題は「景気」ではありません。

団塊世代が60代70代になり、高齢者は激増しますが、他方で年々現役世代は減少していきます。子どもを増やそうにも、親世代が急減しているので出生率が劇的に向上しようとも出生数は減少へ向かいます。現役世代の減少は労働力の減少ではなく、消費者数の減少なのです。

団塊の世代は特殊な時代で、戦後の日本の人口増加の為に4~5人の子どもが生まれ、医療の発展により生まれた子どもも亡くならないで育ちました。その人口増が日本に経済的な発展をもたらしました。そして80年代後半、団塊世代が40歳を超えつつある頃、家を持たない二男三男が家を買ひ、空前絶後の住宅需要が発生します。その波及効果で景気が良くなったということです。人口が減った日本には景気回復はありえません。少子高齢化の中で、一番消費するのは子育て世代で、高齢者は老後の心配があるので消費者にはなりません。日本中が消費者不足です。退職年齢に達した世代への期待は、働く女性の代わりに

家事を引き受け、余った時間は心豊かに遊び、貯金を地域内できれいに使い切り、後の世代に雇用と文化と老後はこう暮らすのだという手本を残すことです。身近な人の役に立ち、地域と親族から愛され惜しまれる人となることです。

日本経済の鍵は女性就労の促進にあります。女性の就労を増やすことで家計収入が安定して、出生率が上がります。税収が増えて年金も安定します。女性が自分で稼いだお金を持ったほうが、モノも売れて、消費税収も増えます。日本語のできない海外労働者に日本語教育をして働いてもらうより、1655万人の専業主婦に働いてもらう方がいいと思います。しかし、日本の女性が子育て後に働きたいと思っていても、一度辞めた主婦を受け入れる仕組みができていません。



そして女性の経営参加です。企業の社長も優秀な娘を社長にしようとはしません。日本では、財布の紐を女性が握っています。ですから、女性が企画した方が売れる商品が作れます。さらに女性が経営することで長期的に女性の心をとらえ続けることのできる企業になるはずで

それを妨げるのが、女性への侮りが染みついた、一部の男性の存在です。男の方が、より能力のある女性よりも地位を得やすい今までの仕組みは、ライバルが減って好都合でした。しっかりした個を確立し、集団に頼らない本当の自信を持つことができないので、自分が「男であること」「女ではないこと」という、個性とはいえない大雑把なものに、自分自身の心の支えを頼ってしまっているのです。

また、女性側の問題として、男社会のシステムに浸った多くの女性の、経験不足、主張の弱さと受け身の態度。また、「女の敵は女」というさみしい状況があります。これを乗り越え、腹を据えて表に立ち、批判を堂々と受け取ることです。女性は失敗しないようにしていますが、99人の失敗がないと1人の成功者はできません。

経営者／団体トップ層へのご忠告としては、景気回復（実は現役人口増加）が企業戦略の不在を糊塗してくれた時代は二度と来ません。根性ではなく理性、高度成長へのノスタルジーではなく未来に向かっていく勇気が必要です。女性を使えない、女性が辞めていく、女性にいい給料を払えない組織から潰れていきます。値上げできる商品・サービスを開拓し、高い給料に見合う力のある部下を育て、賃上げで地域市場を、時短で地域の出生を拡大することです。



ワークショップ実施団体

		テーマ	団体名
6/25 (土)	1	私達がイキイキと輝き続けるために	女性の生き方・健康について考える会
	2	ローカルからグローバルなアクションを	新潟県女性海外派遣修了者の会
	3	今日から身につける手話教室	NPO 法人しゅわるハンズ
	4	家族を守る～放射能の基本知識と対策～	わくわく
	5	女性のための非暴カトレーニング	NPO 法人ウィメンズサポートセンターにいがた
	6	エコな暮らしで快適に	新潟友の会
	7	高校生デート DV、被害者にも加害者にもならないために	NPO 法人女のスペース・にいがた
	8	自治会、町内会、コミュニティ協議会について考える	にいがた女性会議男女平等教育部会
	9	幸福連鎖社会	豊かさラボ
6/26 (日)	10	笑顔のコーチング in 新潟	Assistation
	11	選択的夫婦別姓～賛成か反対か～	連合新潟女性委員会
	12	女性の視点で災害復興を～中越大震災から条例制定へ～	北京 JAC・新潟
	13	震災後の今だから伝えたい 子どもたちの安心・自信・自由	NPO 法人子ども・人権ネット CAP・にいがた

県外の情報

●男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム 「ワークショップ」募集

国立女性教育会館では、男女共同参画社会の形成をめざした研究、教育、学習、実践活動を行っている個人、団体・グループの相互交流とネットワークづくりを推進するためにフォーラムを開催します。現在、このフォーラムで研究・学習・実践の成果を発表するワークショップを募集しています。詳細については、下記にお問合せください。

【開催日】10月21日（金）～23日（日）＊ワークショップの実施は21日（金）、22日（土）2日間

【会場】国立女性教育会館（埼玉県比企郡嵐山町菅谷728番地）

【ワークショップ申込締切】7月25日（月）午後5時必着

【問合せ先】国立女性教育会館事業課「NWECフォーラム」担当 電話：0493-62-6724・6725

●「日本女性会議2011松江」

日本女性会議は、「女性の地位向上」を目的に話しあう全国的な規模の会議で、1995年には新潟市でも開催されました。今年の開催地は松江市。全体会に加え、10の分科会が行われます。参加申し込み等詳細については、下記の日本女性会議2011松江オフィシャルホームページをご覧ください。

【開催日】10月14日（金）～16日（日） 【会場】くにびきメッセ・松江テルサ

【申込締切日】9月13日（火）

【問合せ先】日本女性会議2011松江実行委員会事務局（松江市男女共同参画課内）

電話：0852-32-1205 <http://www.joseikaigi2011matsue.jp/>



●NPO 法人全国女性会館協議会 第55回全国大会 IN 富山

全国女性会館協議会は、全国の男女共同参画センター、女性センター、女性会館等に関する研修事業、情報事業等を実施しています。全国大会は毎年行われ、今年度は「地域に信頼される施設を目指して」をテーマに富山県で開催されます。

【開催日】10月28日（金）・29日（土） 【会場】富山県民共生センター「サンフォルテ」

【申込締切日】10月5日（水）

【問合せ先】財団法人富山県女性財団 電話：076-432-4500



【東日本大震災被災地支援の募金のお礼とご報告】

3月26日から6月26日までの期間「東北地方太平洋沖地震県民募金」及び「東日本大震災女性センターネットワーク募金」へのご協力を、当財団をご利用の皆様にお願しておりました。たくさんの皆様から温かいご支援をいただくことができました。心より感謝申し上げます。

- ・「東北地方太平洋沖地震県民募金」として、新潟県に16,555円送金させていただきました。
- ・「東日本大震災女性センターネットワーク募金」として、NPO 法人全国女性会館協議会に31,461円送金させていただきました。

編集・発行／財団法人 新潟県女性財団

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ2階／新潟県女性センター

TEL 025-285-6610 FAX 025-285-6630

E-mail npwf@npwf.jp

ホームページ <http://www.npwf.jp>